

子供たちの可能性を開く教育・学校とは 日本の大学入試のため(だけ)の学校を超えて

急速な社会変化に対応するため、大学のみならず中学校や高等学校の教育改革も進んでいます。一部の学校では新たな大学入学者選抜に対応するために教育改革を進めていること、また、それが実際の大学教育改革や入試改革を超える動きとなっていることは、既にご存じのことと思います。

本セミナーでは、当時全国最年少の民間人校長として大阪府立箕面高等学校に赴任し、数々の改革を進めてこられた日野田直彦先生をお招きいたします。先生の働き方改革を進めると同時に、海外の大学との交流を進めるなど数々の教育改革を行い、海外トップ大学への進学実績日本一を短期間で達成されたご経験をもとにして、今、中学校や高等学校で何が起きているのかについてお話しいたします。

アクティブラーニングを含め、新しい学び方を身につけた新入生に私たちは何ができるのか、そして各教育段階において何が最適な教育・学習なのかを含め、あらためて高等教育の在り方を考える機会となると考えます。みなさまのご参加をお願いいたします。

なお、本セミナーは、大学院等高度副プログラム「大学マネジメント力養成・向上プログラム」が開講する「高等教育論特講Ⅱ」（担当：齊藤貴浩、川端亮）の一つの講義として提供されるため参加対象は学内限りといたします。

日時： 2019年 1月24日(木) 16:20 ~

場所： 大阪大学大学院人間科学研究科本館5階
キャノピーホール（51番教室）（予定）

講演者：日野田直彦 武蔵野大学中学校・高等学校校長

略歴：1977年生まれ。帰国子女。帰国後、同志社国際中学校・高等学校に入学し、当時の日本の一般的な教育とは一線を画した教育を受ける。同志社大学卒業後、2000年に馬淵教室入社。2008年奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校の立ち上げに携わる。2014年、大阪府の公募等校長制度に応じ、大阪府立箕面高等学校の校長に着任。着任時、全国の公立学校で最年少（36歳）の校長。着任3年で、海外トップ大学への進学者を含め、顕著な結果を出した。2018年より武蔵野大学中学校・高等学校校長となり、新たな教育改革に着手している。著書に『なぜ「偏差値50の公立高校」が世界のトップ大学から注目されるようになったのか!?』IBCパブリッシング、2018年がある。

主催：大阪大学大学院人間科学研究科 附属未来共創センター

：大阪大学大学院等高度副プログラム「大学マネジメント力養成・向上プログラム」

問い合わせ先： mirai-kyoso@hus.osaka-u.ac.jp